

6 月定例議会一般質問 原稿

-2007.6.26-

[こちらで「長野県議会 本会議録画中継」をご覧ください](#)

県民クラブ・公明、大町市の諏訪光昭でございます。

村井県政に対しまして質問いたします。

質問に入る前に、23日、24日の二日間、大町市で、今年度県がすすめています、「地域発 元気づくり支援金」を活用した、「大北地域バレーボール祭り」が開催され、大勢の参加者で賑わい大好评でした。大北バレーボール協会では、青少年から一般、家庭婦人まで愛され、親しまれている、バレーボールを通して、地域の活力をと、企画いたしました。東レアローズ男子バレーボール部の一流プレイヤーの指導に、参加者の多くが技術を習得しようと真剣に取り組んでいました。特に、子ども達の真剣な眼差しが、姿勢が印象的でした。23日には、隣接する運動公園野球場では、信濃グランセローズVS富山サンダーバーズのゲームも開催され、こちらの会場でも、少年野球の子ども達が、目の前で展開されるプレーに感動する、姿が目にと焼きつきました。

知事は就任以来、「輝く81市町村」を掲げ、市町村との対話、信頼関係の構築に、ご努力いただいていることに敬意を表します。県民の福祉向上のため、満身の努力を傾けられることを、期待するものです。

まず、「地域高規格道路 松本糸魚川連絡道路の整備促進について」、質問いたします。

私は、先に行なわれました選挙におきまして、4期16年の市議会議員の経験を活かして、大北地域の置かれている厳しい状況を打破し、県内の他の地区から取り残されないことがないように、また、魅力あふれる地域とするために、県とのパイプ役となることをお約束してまいりました。

最近の大北地域の状況はと申しますと、私が選挙の際に感じておりました以上に厳しさが一層増しております。

議会初日の知事挨拶でも、県内経済に触れ、有効求人倍率は全国平均を上回る状況。しかし、「業種」、「地域」にいまひとつ、回復感に乏しいとの認識を示されております。

4月の有効求人倍率で、全国では1.05倍、長野県全体では、前月を0.01ポイント下回ったものの、1.2倍と堅調に推移していますが、大町職業安定所管内では、前年同期に比べ0.11倍の減少で0.66倍という大変厳しい状況です。

回復感に乏しい「地域」です。

大北地域の中核的な役割を果たす大町市では、市内の一等地とも言える、JR大糸線の信濃大町駅前においてすら、店舗を閉店するケースが続いているほか、近日中に閉店をされると言われている店舗もいくつか出ているという状況であります。

更に、大北地域の観光の目玉であります「立山黒部アルペンルート」におきましては、大町市と黒部ダム(富山県立山町)を結ぶ関電トンネルトロリーバス(無軌条電車)の利用者数が5月4日、1964(昭和39)年の運行開始からの累計5000万人を達成したところではありますが、その後の入り込み客数も前年に比べて減少しているとのことであります。

こういった厳しい状況を打破するためには、地域の産業の振興が是非とも欠かせないと考えているところであります。

そこで、このような背景を念頭に質問をさせていただきますが、3つの質問に関わるもののうち、「地域高規格道路 松本糸魚川連絡道路」と「国営アルプスあづみの公園」につきましては、大町市の議会におきましても特別委員会が設置されている重要な課題であります。

まず、「地域高規格道路 松本糸魚川連絡道路」についてでございます。

企業誘致をはじめ観光、商業など、地域の産業の振興には、高速交通網の整備が必要不可欠、かつ、絶対必要条件であると考えております。

企業誘致に際しましては、企業側から「高速のインターから何分ですか？」との質問が必ず出されるということは既にご承知のことかと存じます。

当地域は、高速交通網から取り残されているというハンディを背負った、条件不利地であり、その影響が、雇用を始めとして、人口減少、少子高齢化などにも大きく影響をしているのであります。こういったことからこの道路の整備は、大北地域に取りまして地域の存亡をかけた一大プロジェクトであります。

また、国営アルプスあづみの公園の利活用を考えた時、堀金・穂高地区と大町・松川地区が一体となった供用に伴う相乗効果により、一層の来園者の増加も期待されているところでありますが、その際にはこの高規格道路が両地区を結ぶ連絡道路としての役割も期待されているところであります。

「国営アルプスあづみの公園 大町・松川地区」の開園を、平成21年春季に控え、早急な整備を望むものであります。

更に、過日、県産科・小児科医療対策検討会の「長野県の産科・小児科医療のあり方に関する提言書」が提出をされましたが、県内10圏域の中で、大北圏域と木曾圏域には、連携強化病院の指定がございませんでした。

大町市には市立大町総合病院があり、産婦人科・小児科の医師も設備もございます。それにもかかわらず、24時間体制で、二次医療、救急搬送に対応する施設である連携強化病院の指定がされなかったということで、地域の皆さんの不安も大きくなっておりますが、万が一の時には松本などの連携強化病院まで搬送しなくてはならないということも考えられます。

その場合にもネックとなるのが道路であります。

医療を取り巻く環境を考えますと医師の集約化等は避けられないということも理解できるところで

はありますが、集約化するならば、患者を搬送するための道路整備の一環としても考えていただきたいのであります。

地域にとりましては、この道路整備は、産業振興、生活基盤整備といった観点だけではなく、地域住民の安心、安全な生活を確保するといった点からも、待ったなしの状況であると思っております。県としては、この道路整備について、どのように認識されているのか、知事の御所見をお伺いいたします。

併せて、大町以北の事業着手だけでも先行してお取り組みをいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。知事の御所見をお伺いいたします。

事業実施に向けた今後のスケジュールにつきましては、土木部長にお伺いいたしますので宜しくお願いたします。

次に「高瀬川右岸堤防道路交差点の立体交差化について」お尋ねいたします。

先ほど松本糸魚川連絡道路についてお伺いをしたところでありますが、この高規格道路の整備の如何に関わらず、豊科インターからのアクセス改善が、大北地域の現状考えたときには、最も優先する路線として高瀬川右岸堤防道路の整備促進が必要であると考えております。

この道路は現在、豊科インターと大北地域を結ぶ幹線道路の役割を果たす一方、朝夕の通勤や日常の生活道路として地元の住民には欠かせない道路となっているからであります。

最近では、安曇野市の誕生と共に、東西の人や物の移動が増加しています。このため、オリンピック関連道路として整備された時とは、だいぶ様子に変化してきています。生活道路と混在する道

路としては、やも得ない現状とは認識しておりますが、出来る限り立体化して、平面交差を解消することが必要です。

特に、安曇野市の高瀬橋及び安曇橋との交差点における渋滞が顕著になっております。住民の日常生活への影響もさることながら、大北地域の産業振興、松本市内の医療機関への患者輸送等の緊急時の対応なども勘案し、これらの交差点を立体交差化することが、渋滞の解消につながり、住民の日常生活における利便性の確保と安全・安心の確保のために有効な方策であると考えますが、知事の御所見をお伺いします。

次に、「国営アルプスあづみの公園 大町・松川地区の整備促進と利活用について」お伺いいたします。

平成16年7月に開園いたしました、国営アルプスあづみの公園堀金・穂高地区の来園者は、平成18年度末には65万人に達し、年間約25万人が訪れております。

この成果は、平成21年春季に予定されている、大町・松川地区の開園に向けて、地元住民に大きな期待を抱かせるには充分であります。

知事も、国営アルプスあづみの公園の開園に向けては、これまで、並々ならぬ心血を注がれ、開園にこぎつけていただきました。

私も昭和61年12月の予算要求が決まったときから拘わってきました。加えて、これまで、その動向を注意深く見守り、機会あるごとに、全国各地の国営公園を見てまいりました。穂高・堀金地区の開園と、今回の大町・松川地区が、一体の公園と言うことですので、その点からも、開園時期が決定したことは、感無量であり、地域に与える効果に大いなる期待を寄せています。

全国で、はじめての二眼レフ方式です。

「月に橋を架けるより、難しい」といわれた公園が、多くの先人の皆様のご努力で、当初予定の形で、今日を迎えることになりました。国営公園の開園後は、県、市、地元住民がそれぞれこの公園の利活用を考えるとともに、地域の振興に資するため、連携を図りながら一体となった取り組みを進める必要もあると考えます。

既に地元の自治体では開園後の公園の利活用に向けた対応を模索する動きも出ておりますが、二眼レフ方式の国営公園を県としてこのどのように利活用していくおつもりか観光部長にお聞きいたします。

また、そのためには地元市町村や地域住民との広域連携をどのようにはかっていくおつもりか、併せてお聞きします。

開園に伴い心配は、交通アクセス、物流です。そこでまず、穂高、堀金地区開園後の、周辺道路であります、県道塩尻鍋割穂高線、県道有明大町線の大町市、松川村、安曇野市穂高・堀金地区における、過去の人身事故の発生件数、事故の形態、特徴などについて、県警本部長にお聞きいたします。

平成21年春季の大町・松川地区一部開園に向けて、来園者の皆様が、公園の魅力を満喫し、リピーターとなっただけのために、国営公園の周辺を含む地域全体の魅力のアップが必要です。そのための周辺整備は、地元の市や県に課せられた使命であると考えております。

そこで、国営公園の周辺整備について、県は今までも周辺市町村と連携して様々なお取り組みを

いただいているところではありますが、今後も引き続き周辺整備に取り組むお考えはございますでしょうか、土木部長にお聞きいたします。

併せて、両公園を結ぶアクセス道路につきましては、県はどのように検討しているのか、土木部長お聞かせください。

今、まさに、深い洞察力と先見性を持ち、冷静な政治判断が求められています。

村井知事に対する、県民の期待は大であります。

知事の理想とする「地域が輝く 長野県」を、より明確にし、将来展望にたった、勇気ある政策の実行を期待して、質問を終わらせていただきます。